

令和7年12月第4回 木島平村議会定例会
《第3日目 令和7年12月5日 午前10時00分 開議》

議長（勝山 正）

皆さん、おはようございます。

（出席者全員「おはようございます。」）

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第1、一般質問を行います。

一般質問の順序については、議会運営委員会において抽選のとおりです。

3番 湯本行浩議員。

（「はい、議長。3番。」の声あり）

（3番 湯本行浩 議員 登壇）

1. 観光・農業振興の手段と目的の政策評価の必要性について

3番 湯本行浩 議員

それでは、議長から発言を許されましたので、通告に基づきまして2項目の質問に入らせていただきます。

1項目目です。観光・農業振興の手段と目的の政策評価の必要性についてです。

9月議会では、村長は「観光振興や農業振興そのものが最終目的ではなく、村民の生活をより良くしていくための手段である」と答弁されました。しかし、村民から見ると、観光振興に投じられた予算や各種の取組が実際に生活の満足度や安心感の向上に繋がっているのかどうか、わかりにくいのが現状であります。

観光や農業を手段として位置付けるのであれば、生活満足度や所得、交流人口、子育て支援の評価、移動のしやすさなどの指標を合わせて、村民生活の向上にどれだけ寄与したのかを実績として検証していく必要があるのではないのでしょうか。また、来訪者数や観光消費額、域内消費への波及など観光施策の経済効果についても比較できるデータが十分に示されていません。現状では、手段である観光や農業が、目的である村民生活の向上にどれだけ貢献したのかという根拠が見えづらく、政策評価として十分とは言えない状況ではないのでしょうか。政策の目標・実行・結果・改善が村民にもわかる形で示されることは、行政の信頼や納得感にも繋がる大切な視点ではないかと思えます。

そこで、4点の質問をいたします。

1点目、観光や農業を手段として捉えるのであれば、生活満足度、安心感、所得、移動の利便性、地域参加といった指標を設定し、現状値と改善状況を政策評価に反映していくべきだと考えますが、村としてこういう取組を進めていくお考えがあるのか、お伺いします。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

それでは、お答えいたします。

村では、令和4年度に住民実態調査を実施しました。村民の暮らしや地域活動の状況、交通の利便性などを把握したわけですが、この結果を踏まえて、令和7年9月に第7次総合振興計画を策定し、5つの基本目標とそれぞれの目標に対する施策を掲げるとともに、施策ごとに目標値を設定し、その

評価に活用していくこととしております。ただし、村のレベルで費用的、技術的に過度な負担となる指標は定めることができませんので、ご理解を願います。

今後も村民の皆様の声を反映しながら、誰もが暮らしやすい持続可能な村づくりに繋がる施策の展開に努めてまいります。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

生活満足度などの指標は慎重に検討したいとのことだと思えますけれども、導入に向けた検討をされるのか、お聞きします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

今「導入に向けた検討をするのか」というお話でございます。

村では毎年、事務事業評価をいたしまして、前年度の事業について評価をしております。その数値に基づきまして、次年度の予算に反映できるものは反映しております。また、住民の方のご意見を伺う機会とすると、地区づくり懇談会ですとか、ホームページ上で意見の募集ができるメールも受け付けておりますので、そのような形で意見の反映はしていきたいと考えております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

お聞きしているのはその指標のことで、例えば前年と今年度を比べて多くなったのか、少なくなったのか。そういう指標をするかどうかお伺いしています。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

指標のお話でございます。

現在、第7次の総合振興計画ですとか、それに基づく総合戦略に基づいて、各事業・施策についてKPIの指標を設定しております。毎年、総合戦略では、推進委員会を年2回開催し、進捗状況、またその年度の実施状況について報告させていただいており、意見をいただいているところであります。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

村民が生活の向上に繋がったかどうかを把握できないまま施策を続けることになりませんか。目標・実行・結果・改善のサイクルを住民にわかる形で示すことが、行政への信頼、納得感に繋がるのではないかと思います。お考えをお聞きします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

ただいま申し上げたとおり、総合戦略推進会議では、各委員の皆さんへそういった数値の達成状況、また、年度ごとに目標の設定をして、例えば低すぎる目標であれば、もう少し高いところへ目標を移していくという設定変更も行っております。それについては、委員会の方でも公表をしておりますので、ご理解をお願いいたします。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは2点目になります。

観光イベントや情報発信にかかった費用が来訪者数の増加や観光消費額、定住促進などにどれほど効果をもたらしたのかについてお伺いいたします。今後、費用対効果が限定的であると判断される場合には、住民の生活の向上に繋がる施策への予算配分を見直す考えはありますか。お伺いします。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

各施策の評価については、総合振興計画の目標値及び総合戦略のKPI重要業績評価指標に基づいて行っております。総合振興計画を構成する各事業については、公共性、有効性それから効率性の観点から事務事業評価を実施し、その結果に応じて事業の継続、見直し、廃止を判断し、次年度予算に反映させることとしております。

その他、補足事項について担当課長に答弁をさせます。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

村長の答弁に補足し、お答えいたします。

個々のイベントや情報発信がどれだけ来訪者数の増加や消費額に寄与したのか、これを正確に数値として捉えることは大変難しいことであると認識しております。しかしながら、一定の方向性を把握する必要性はありますので、アンケート調査や統計データとの比較など、可能な範囲で効果の見える化に取り組み、事業の改善に繋がるよう取り組んで検討してまいります。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは、その費用対効果の算出が難しいとの答弁でしたけれども、効果の見極めを行う際に、村として特に重視している判断基準や指標があればお伺いします。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

観光分野につきましては、それぞれ総合振興計画、総合戦略で観光分野に関わる指標を設定しておりますので、それを中心にそれを基に評価をしていくということになります。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

現状のまま継続とのことですが、住民の生活向上が最終目的である中、効果の不明確な施策に予算を投入し続けることに不安があります。少なくとも簡易的な効果や測定でも行う考えはありませんか。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

議員が言われたとおり、それぞれの産業振興については手段であって、最終的な目標はその福祉の向上であります。いずれも村民の生活や福祉向上のために行っている施策であります。

当然、農業振興、観光振興、産業振興をやっておりますが、それ以外に直接的に村民の皆さんの生活困難な世帯の支援や、それから全体的な福祉、健康施策など、直接的な村民生活に関わるものについても、十分かどうかは別ですが、財政的にまた制度的に許す限り精一杯やっているとっておりますのでよろしく願いいたします。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは3点目です。

改めてですが、ケヤキの森公園などを単なる健康・憩いの場としてだけでなく、温浴施設、飲食スペース、交流の場などを備えた複合施設を整備することは、生活の質の向上と交流、消費の創出に寄与すると考えています。観光と日常生活を繋ぐ、こうした生活に身近な施設づくりについて検討されるお考えはありますか。お伺いいたします。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

ケヤキの森公園については、村民の憩いとふれあいの場として、村民生活・文化の向上、そしてまた福祉の増進を図る施設として親しまれております。特にマレットゴルフ場などは、村民利用のほか、近隣市町村の皆様や観光客にも広く利用していただいております。利用者ニーズに応えるため、公園内での飲食の提供も行っておりますので、観光利用者であってもゆっくりと楽しんでいただくことができる施設であります。

ただ、あくまでも村民の施設として、観光については二次的な効果ではないかと思っております。温浴施設などケヤキの森公園での多額な投資は現時点で考えておりません。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

考えていらっしゃらないということですが、住民が利用しやすい施設、全世代の交流拠点の必要性は重要と考えますが、もう一度お聞きしますが、そういうものを検討するお考えはありませんか。お聞きします。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

先ほど申し上げましたとおり、村民の皆さんの憩いの場でもあり、交流施設でもあります。その機能を充実することは必要だと考えておりますが、ご提案にありました温浴施設等については、かなり議論が必要だろうと思います。費用もかかります。その点で現在考えておりません。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは、4点目になります。

ケヤキの森公園や公共施設の整備活用にあたり、村民の意見や希望を反映できる仕組みを設けることについて、村としてはどのようにお考えなのかお聞きします。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

ケヤキの森公園のほか公共施設全般であります。特にケヤキの森公園の施設については、それぞれご利用いただいている村民の皆さん団体の皆さんからもご意見を伺いながら、実施できる対応について進めています。今年も屋内運動場の人工芝化を進めているところであります。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

村として意見を反映する際に特に重視する基準は、利用者数、費用、維持管理負担など重視する点があればお伺いします。また、それらをどのように判断されるのかもお聞かせください。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

施設を維持管理するうえでの基準というお話をいただきました。

それぞれ各施設につきましては、その目的、利用者が異なってきます。毎年、利用状況については、その年度の利用の実績報告で報告させていただいているとおりでありますが、やはりそういった利用者の状況、修繕費の状況等を鑑みまして、今後の維持管理については、それぞれ毎年所管の方で検討しているという状況になります。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

既存の範囲で対応とのことですが、それでは十分な村民参加や意見反映が期待できないのではないのでしょうか。具体的な参加手法や意見収集の方法を検討するお考えはありますか。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

公共施設の幅広い意味だと思いますが、前回は道の駅ファームス木島平について意見募集を行って、事業化したいということで説明会を行いました。ご理解いただけない部分もあるということもありますが、利用の状況によって、維持管理費の高騰であるとか、利用者の減少が続いているとか、そういうものについては、個々に意見を聞きながら対応していく必要があるだろうと考えています。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

これ全体的な質問ですが、村民から見ても、施策が生活満足度や安心感にどう寄与しているのかがわかる形での評価や説明が必要ではないかと思えます。村民の生活の向上を最終目的に置き、施策の評価、改善、情報公開が一貫して行われることが重要であると考えますが、いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

公共施設全般ということですが、そうすると、村とすれば、学校施設のような義務的な施設もありますし、それからまた、一部の村民の皆さんが利用する施設もある。本当に幅広い施設がありますので、先ほど申し上げましたとおり、それぞれ個々の状況、それから将来的な施設の維持管理等を含めながら、総合的に判断をしていくのがいいのではないかと考えております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

2. 最終処分場の将来と早期対策の必要性

3番 湯本行浩 議員

それでは2項目に入ります。

最終処分場の将来と早期対策の必要性についてです。

家庭から出るごみ処理の現状をより深く理解するため、ごみ処理施設と最終処分場を見学いたしました。

担当者の方からは「現在の最終処分場はあと約10年で満杯になる見込みであり、できるだけごみを減らして延命させる必要がある」との説明を受けました。また「新たに処理施設を建設するとなれば、準備から稼働までにおよそ10年かかる」という話もお伺いいたしました。

広域で対応する施設である以上、木島平村だけで決められる問題ではないとは理解しております。しかし、このままの状況が続けば、近い将来、処理施設の不足が深刻化する可能性が高いと危機感を抱きました。そうした中で、村としても早い段階から建設に向けた具体的な準備や検討を始める必要があるのではないかと感じます。

そこで、4点の質問をいたします。

1点目、最終処分場の現在の残容量と焼却灰の直近年度の年間埋立量ほどの程度か、お伺いいたします。また、残容量の測定は毎年実施されているのかについてもお伺いします。

議長（勝山 正）

梅寄民生課長。

民生課長（梅寄伸一）

最終処分場への焼却灰の搬入は、エコパーク寒川の稼働開始と同年の平成21年から開始されました。埋立許容量を2万2,000立方メートルとするとして搬入を開始以降、令和7年5月までに1万7,700立方メートルが搬入され、現在の埋立残容量は1万1,500立方メートルとなっております。

なお、ここで1万7,700と1万1,500を足しても、2万2,000を超えてしまいますけれども、この搬入される1万7,700という数字は、エコパーク寒川からの搬出時の数字であって、実際現場に持っていく埋め立てて圧縮することによって体積が減るということで、このような数字となっているということでご理解をいただければと思います。

この間、令和元年9月と令和6年9月に測量会社での実測による補正が行われ、このような数字となっております。今後は2年に一度、測量実施により、残容量の測定の確認を行うこととなっております。なお、近年の年ごとによる搬入量は900立方メートルほどとなっております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

再質問ですが、2年に一度の測量を行っているということでしたが、過去数年で年間の埋立量に増減の傾向があるのか、また、今後埋立てを抑えるために、村が優先的に取り組むべき対策をどのように考えているのか、お伺いいたします。

議長（勝山 正）

梅寄民生課長。

民生課長（梅寄伸一）

先ほど申し上げたとおり、これまで令和元年9月、令和6年9月に測量を実施したということがございます。この間5年ほど空いておりますけれども、その後、残容量が少なくなってきたということもあり、今後は2年に1回測量をして確認をしていくことになっております。

村としては、そこに搬入される焼却灰が少なくなるということで、そのためにごみの搬出量が少なくなるような取組を進めてまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

容量を延命させるために、具体的なごみの減量策について、村としては特に重点を置く分野はどこか、お伺いいたします。

議長（勝山 正）

質問内容が通告と合っていないので、もう一度確認、訂正していただけますか。今の再質問について。

3番 湯本行浩 議員

それでは、この質問は、前の再質問で終わらせていただきます。

2点目です。

現状の廃棄物量や焼却灰の発生量の推移を踏まえたうえで、現時点で想定されている最終処分場の満杯時期についてお伺いします。さらに、人口減少や観光客数の変動など将来の条件を加味した場合、満杯時期がどのように変動するののかもお聞かせください。

議長（勝山 正）

梅寄民生課長。

民生課長（梅寄伸一）

現状の条件を踏まえた予想では、あと10年ほど搬入可能と想定されるということ、岳北広域の事務局からお聞きしております。

人口減少や観光客数の変動による将来推計については、不確定要素も多く、現状何とも言えない状況ではございますが、それ以上に、一人一人のリサイクル、リユースの徹底によるごみ縮減に向けた取組がより長期使用に向けた取組になると考えております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは3点目です。

最終処分場における浸出水、地下水などの環境モニタリング結果について、住民が継続して確認できる形で岳北広域行政組合により公開されているのか、その状況をお伺いします。

議長（勝山 正）

梅寄民生課長。

民生課長（梅寄伸一）

環境評価につきましては、一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に関わる技術上の法令に基づきまして、最終処分場地下水25項目、最終処分場水処理施設放流水40項目について、毎

年1回検査を実施しており、いずれも基準値を超えることはなく、地元野沢温泉村の虫生区、七ヶ巻区にて構成される最終処分場公害防止対策連絡協議会へ報告申し上げるとともに、岳北広域行政組合公式ウェブサイトへも掲載し、公表をしているところでございます。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

公表されているということですね。

4点目です。ごみの減量化に向けて、村としてどのような対策を講じているのか。また、今後の方針についてお聞きします。

議長（勝山 正）

梅寄民生課長。

民生課長（梅寄伸一）

減量化への取組として、毎年3月に開催する環境衛生委員会にて、ごみの排出削減に向けた削減目標、近年については対前年比5%削減をお願い申し上げるとともに、今年3月に改定しましたごみと資源の分別辞典、広報誌、ふう太ネットを活用する中で、ごみ処理施設の現状とごみ削減へ向けた広報活動を行ってきました。あわせて、月1回の休日エコプラザの実施、年4回の組成調査、年2回の古着古布の回収、村民祭に合わせた環境フェア等々を実施する中で、ごみの資源化及び減量に向けた啓発活動に取り組んできました。また、ごみに対する関心を持っていただくため、毎月ごみの処分量に加え、令和6年11月号の広報から皆さんが出される古紙の重量と売却金額を掲載してきています。

11月に実施しました「わたしのごみのゆくえ見学ツアー」は、参加者の皆さんから大変好評でしたので、今後はお子さんなど幅広い年代の方にも「自分の出すごみ」に関心を持っていただき、「分ければ資源、混ぜればごみ」の意識の醸成に繋がるような取組を考えていきたいと思っております。

なお、これら取組は、当村だけの取組では不十分であり、共同運用する飯山市、野沢温泉村と共に連携を図るとともに、実際の管理をいただいている岳北広域行政組合の担当者とも連絡をとりながら、効果的な対策を今後も模索していきたいと考えております。

議長（勝山 正）

以上で、湯本行浩議員の質問は終わります。

（終了 午前10時28分）

議長（勝山 正）

ここで暫時休憩とします。

再開は、午前10時40分とします。

（休憩 午前10時28分）